

漁港は魚の保育園

http://www.gyokou.or.jp/

漁港漁場月報

平成31年2月15日 発行
 毎月 1回15日発行
 編集兼発行人 公益社団法人 全国漁港漁場協会
 橋本 牧
 東京都港区赤坂1-9-13三會堂ビル8階
 電話 東京(5114)9981
 定価 1部 70円
 (会員の購読料は会費の中に含む)

漁港漁場漁村整備促進協議連が総会

漁港漁場漁村整備促進協議連(会長・衛藤正一 千葉県議員)は、2月1日12時から自民党本部で総会を開き、平成30年度の会務・会計報告を行うとともに、平成30年度水産基盤整備関係修正予算案、平成31年度水産基盤整備関係修正予算案及び漁港漁場整備長期計画の取組状況について水産庁から聴取した。

予算案について水産庁から聴取



挨拶する衛藤会長

金子泰之幹事(衆議院議員)の司会で、議事が進められ、最初に、衛藤会長から、漁港・漁場・漁村の整備促進にあたり多大な尽力を賜っていることに感謝申し上げる。昨年は、年末にTPPの発効、水産改革のための改正漁業法等の成立、IWCCからの脱退など、大変な変化を乗り越え、大きな変革を乗り越え、このためにも、構造改革を進め、国際競争力のある強い水産業をつくること、求められており、水産基盤整備事業において、

しっかりと支えていくことが重要である。平成31年度予算は水産改革を進める上で極めて重要である。防犯・減災にかかわる緊急対策を要するところ、度比28%以上の増となる。これは、昨年末の財務省予算局長以下幹部に対する申し入れを始めとする先生方の活動の成果である。漁港・漁場・漁村の整備は、我が国の水産業を支える重要な施策であり、当協議連は、全国各地の水産業者・漁民の声を、支えるこの観点から引き続き活発な活動を「行いたい」と挨拶があった。

続いて、金子幹事が平成30年度の会務・会計報告を行い承認されることにも、新規会員の確保に努めた結果、新に20名の国会議員の加入があり、現在、会員総数は150名に達したことが報告された。次に、岡田行徳漁港整備部長から平成31年度水産基盤整備関係修正予算案及び平成30年度修正予算案について、予算の考え方と具体的な内容が資料に基づき説明された。また、漁港漁場整備長期計画の取組状況については、①新築水面を活用した新たな水産業の拠点づくり(神奈川県小田原漁港)、②産地市場の統廃合による集出荷機能の強化(徳島県標津漁港)、③温暖化による磯焼けからの漁場回復対策(北海道神恵内地区)、④生活史に配慮した域内の水産環境整備(新潟県沿岸)、⑤浮き魚礁による漁業の効率化(宮城県日向漁港)、⑥南海トラフ地震・備忘の漁港の強化対策(三重県錦漁港)、⑦離島における防災拠点としての漁港整備(鳥根県浦郷漁港)、⑧



漁港漁場協会からの発言等活発な意見交換

台風・低気圧災害に備えた防災拠点漁港の整備(高知県安芸漁港)、⑨漁港内の力小艇による漁船と漁獲物の集約・輸出(福岡県糸島市)について詳細説明された。続いて、水産庁の説明に關連し、漁港漁場団体の完全陸上養殖の道を探るための先駆的取組に、(公社)全国漁港漁場協会の橋本会長から「平成31年度の水産基盤整備予算案について、農林水産省は国の基本であることから国の一層の支援について要請があった。」

また、鹿児島県漁港整備協会の川添会長(会長)島田長から発言があり、仲介を確保していただいた。協議の先生方の力強いご支援に、漁港関係団体を代表し御礼申し上げる。旨言があった。次に、地域を代表して北海道漁港漁場協会の高橋昌幸会長(神恵内市長)から、北海の漁業の現状について、また、漁港漁場事業

業で新規事業化される海岸高潮対策事業について、水産庁の強い要望がある等、今後とも水産業の振興と活性化の推進に引き続き要請が行われる。その後、意見交換が行われ、出席者からは、「水産改革を進める中で

現場の声を聞いていただき、予算をしっかりと活用していただきたい」「ウチのウチの密猟対策をしっかりと行いたい」「水産環境整備事業等の漁港整備に對する要望が強い」「都市の人を漁村に呼びたい」「農泊と連携して活況を推進していただきたい」「有明海や八代海等の閉鎖性水域の振興を願いたい」「現場の声を反映し、予算執行をお願いしたい」、平成31年度新

規事業である特別補助による「漁港・漁場整備」については、外国人材の対策とご協力をお願いしたい」と挨拶し、総会が閉会した。

本人出席の国会議員は(参議院議員) 藤野 加藤寛治、金子万寿夫、木村文昭、古賀篤、武井中樹、武藤篤、谷公、中村裕一、西田昭一、牧島公裕、三浦靖、宮澤博行、宮路拓馬、山口俊一(参議院議員) 藤野 加藤寛治、金子万寿夫、木村文昭、古賀篤、武井中樹、武藤篤、谷公、中村裕一、西田昭一、牧島公裕、三浦靖、宮澤博行、宮路拓馬、山口俊一(参議院議員) 藤野 加藤寛治、金子万寿夫、木村文昭、古賀篤、武井中樹、武藤篤、谷公、中村裕一、西田昭一、牧島公裕、三浦靖、宮澤博行、宮路拓馬、山口俊一(参議院議員)

第4回 漁港利用促進全国会議開催



会議の様子

水産庁は、1月20日(火)午後3時30分から、農林水産省 階議室において、第4回漁港利用促進全国会議を開催し、議を開催し、三十名が出席した。この会議は、フレッシュアポートの適正漁港利用を推進し、漁港の活用を促進するとともに、漁港の活性化の創出を推進する目的として、全国の都道府県・市町村等の漁港管理者や放流対策担当者等を対象とし、毎年開催されている。出席者からは、「水産改革を進める中で現場の声を聞いていただき、予算をしっかりと活用していただきたい」「ウチのウチの密猟対策をしっかりと行いたい」「水産環境整備事業等の漁港整備に對する要望が強い」「都市の人を漁村に呼びたい」「農泊と連携して活況を推進していただきたい」「有明海や八代海等の閉鎖性水域の振興を願いたい」「現場の声を反映し、予算執行をお願いしたい」、平成31年度新

なっているのではないかと記述しています。水産庁としては、全国津々浦々五干から五干あると言われている漁村が健全に維持発展していくことが、水産物の安定供給のみならず、我が国の国境の監視、沿岸の環境保全等々、多面的機能を維持すること、大変重要だと考えています。昨年制定された漁港整備長期計画において、漁港の活用と漁村の活性化の創出が、重要課題の一つとして取り上げられています。この意図するところは、全国三千ある漁港を、いかに上手に活用し、漁村を元気にしていくかということに重点が置かれています。現在、水産庁では、いかに漁港を有効に活用し、漁村を元気にしていくかということに重点が置かれています。現在、水産庁では、いかに漁港を有効に活用し、漁村を元気にしていくかということに重点が置かれています。

プレジャーボート等の利用の場として、多くの来訪客が賑わっているが、漁協が主体となつて、漁港を開放したり、直販所を開設したり、大変賑わっている事例もあつていますが、この場合、プレジャーボートによる漁港の活用と漁村の活性化の創出が、重要課題の一つとして取り上げられています。この意図するところは、全国三千ある漁港を、いかに上手に活用し、漁村を元気にしていくかということに重点が置かれています。現在、水産庁では、いかに漁港を有効に活用し、漁村を元気にしていくかということに重点が置かれています。

全国の漁港管理者等約三百名が出席した。この会議は、フレッシュアポートの適正漁港利用を推進し、漁港の活用を促進するとともに、漁港の活性化の創出を推進する目的として、全国の都道府県・市町村等の漁港管理者や放流対策担当者等を対象とし、毎年開催されている。出席者からは、「水産改革を進める中で現場の声を聞いていただき、予算をしっかりと活用していただきたい」「ウチのウチの密猟対策をしっかりと行いたい」「水産環境整備事業等の漁港整備に對する要望が強い」「都市の人を漁村に呼びたい」「農泊と連携して活況を推進していただきたい」「有明海や八代海等の閉鎖性水域の振興を願いたい」「現場の声を反映し、予算執行をお願いしたい」、平成31年度新

規事業である特別補助による「漁港・漁場整備」については、外国人材の対策とご協力をお願いしたい」と挨拶し、総会が閉会した。

本人出席の国会議員は(参議院議員) 藤野 加藤寛治、金子万寿夫、木村文昭、古賀篤、武井中樹、武藤篤、谷公、中村裕一、西田昭一、牧島公裕、三浦靖、宮澤博行、宮路拓馬、山口俊一(参議院議員) 藤野 加藤寛治、金子万寿夫、木村文昭、古賀篤、武井中樹、武藤篤、谷公、中村裕一、西田昭一、牧島公裕、三浦靖、宮澤博行、宮路拓馬、山口俊一(参議院議員)

藤野 加藤寛治、金子万寿夫、木村文昭、古賀篤、武井中樹、武藤篤、谷公、中村裕一、西田昭一、牧島公裕、三浦靖、宮澤博行、宮路拓馬、山口俊一(参議院議員) 藤野 加藤寛治、金子万寿夫、木村文昭、古賀篤、武井中樹、武藤篤、谷公、中村裕一、西田昭一、牧島公裕、三浦靖、宮澤博行、宮路拓馬、山口俊一(参議院議員)

藤野 加藤寛治、金子万寿夫、木村文昭、古賀篤、武井中樹、武藤篤、谷公、中村裕一、西田昭一、牧島公裕、三浦靖、宮澤博行、宮路拓馬、山口俊一(参議院議員) 藤野 加藤寛治、金子万寿夫、木村文昭、古賀篤、武井中樹、武藤篤、谷公、中村裕一、西田昭一、牧島公裕、三浦靖、宮澤博行、宮路拓馬、山口俊一(参議院議員)

